様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月　３ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2021
課題番号：１７Ｋ０３９１７

研究課題名（和文）多国籍企業の言語戦略と知識移転：日本企業の事例研究

研究課題名（英文）Language strategy and knowledge transfer in MNCs: Studies on Japanese MNCs

研究代表者
金　熙珍（Kim, Heejin）

東北大学・経済学研究科・准教授

研究者番号：４０６３４５３０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本科研の研究成果として、日本企業の海外子会社が異なる言語を選択する原因及び経営上の影響についてデータ収集と分析を行い、学会報告及び論文発表を通じて発信することができた。
非英語圏国の企業で、複雑な言語環境を有するアジア地域で多くの子会社を持つ日本企業が、海外子会社経営においてなぜ特定の言語を選択するのか、またその言語選択は海外子会社の経営にどのような影響を与えるのかという重要な課題に取り組んだ。
コロナの影響で計画していた海外調査は殆ど実施できなかったが、手元にあるデータ分析で色々な成果を出すことができた。そして、今後の研究課題を多く発見できたことも大きな成果であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本科研の学術的意義としては、まず、海外子会社の言語選択と知識移転を繋げることで、知識移転に関する既存研究に言語の重要性を提示したことが挙げられる。それから、英語圏の欧米企業を中心に発展してきた多国籍企業の言語選択に関する研究に、非英語圏国である日本企業が抱える課題や海外子会社が異なる言語を選択する合理性に関する理解を提供したことにも学術的意義がある。
社会的・実務的な意義としては、「海外子会社の経営の際にどのような言語を選択すれば良いのか」といった実務家が抱える悩みに対して、９０社以上のデータを用いた分析より一定のパターンを提示することができた。

研究成果の概要（英文）：In this research project, we have collected and analyzed data about cause and effect of different language choices in subsidiaries of Japanese Multinational Companies(MNCs). We have presented the analysis results in several domestic and international academic conferences, and published papers.
As non-English native countries MNCs that operate large numbers of their subsidiaries in Asia with high language diversity, Japanese MNCs face unique challenges compared to their counterparts from Europe and America. Thus, the question of why Japanese MNC subsidiaries choose different language and how the language choice affect their management are critical questions to be studied.
Under COVID19, we could not conduct fieldworks as we had planned. However, we reorganized our existing data and tried various approach to analyze them, through which we made several findings. Also, we believe that finding several research gap and questions to be studied is a valuable accomplishment of this project.

研究分野：国際経営

キーワード：海外子会社の言語選択

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近年のアカデミアでは‘グローバル企業は英語を公用語化するべき’という論調が主流となっており(Neeley, 2012 ; Reiche, Harzing, & Pudelko, 2015)、シャープ、楽天、ファーストリテイリング、ホンダといった日本企業の中でも英語を社内公用語化する動きが拡大しつつある。企業活動が益々グローバル化する中で、事実上ビジネス界の公用語となっている英語の重要性は言うまでもない。しかし、‘英語の公用語化は、社内のコミュニケーションと情報共有を促進し、意思決定をより迅速化する’といった通説は、本当なのだろうか。その通説は、どの産業、どの国の企業、どの部門にも適用できるのか。以上のような問題意識から、本研究では、多国籍企業の言語戦略が知識移転に及ぼす影響を探る。

２．研究の目的

本研究の目的は、グローバルに活躍する日本企業が、本社と海外拠点との間における情報交換に際して、いかなる言語戦略を採用しているのかを実証的に明らかにすることにある。すなわち、拠点間で使用される言語の違いが知識移転や情報交換の質の高さや効率にどう関連するか、組織運営に正と負の両面でいかなる影響を与えるのかを、特に生産部門と開発部門に焦点を当てつつ、また韓国企業との比較研究をも行いながら、個別企業を対象として分析する。そうした実証研究を通じて、英語の公用語化を当然視する傾向のある欧米発の研究の妥当性を検討するとともに、日本企業のグローバル戦略に適した言語戦略の在り方とは何か、よりアジア企業のコンテキストに適合した実効性のある言語戦略はいかにあるべきかの提案にもつなげていきたい。

３．研究の方法

当初は、国内・海外のける企業調査の具体的な計画を持っていたが、COVID19 の影響により限定的にしか調査が実施できなかった。そのため、2018 年まで現地調査を通じて収集できたデータと、そのほかのプロジェクトで著者らが収集してきたデータをもとに、当初本研究がもっていた問への答えを探った。

４．研究成果

本科研の研究成果として、日本企業の海外子会社が異なる言語を選択する原因及び経営上の影響についてデータ収集と分析を行い、学会報告及び論文発表を通じて発信することができた。非英語圏国の企業で、複雑な言語環境を有するアジア地域で多くの子会社を持つ日本企業が、海外子会社経営においてなぜ特定の言語を選択するのか、またその言語選択は海外子会社の経営にどのような影響を与えるのかという重要な課題に取り組んだ。

コロナの影響で計画していた海外調査は殆ど実施できなかったが、手元にあるデータ分析で色々な成果を出すことができた。そして、今後の研究課題を多く発見できたことも大きな成果であった。特に、今回の研究ではデータ収集の制約もあり、海外子会社が異なる言語を選択する合理性に焦点を当てた分析となったが、今後は異なる言語を選択したことが、本社、現地パートナー、顧客、行政など様々なステークホルダーとの関係性や、本社およびほかの海外子会社との間における知識共有・移転、そして組織文化や信頼構築、イノベーションやパフォーマンスといった様々な成果にどのような影響を与えていくのかを探っていく

必要がある。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 金熙珍・板垣博・関口倫紀	４．巻 69-1
２．論文標題 日本企業の海外子会社における言語選択	５．発行年 2021年
３．雑誌名 一橋ビジネスレビュー	６．最初と最後の頁 32-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計8件（うち招待講演　0件／うち国際学会　6件）

１．発表者名 Heejin Kim, Hiroshi Itagaki
２．発表標題 Language strategy from the groun up: How overseas subsidiaries select, develop, and compose language resources
３．学会等名 Academy of Management（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Heejin KIM, Hiroshi Itagaki
２．発表標題 A right language for differentiated missions: language choice of Asia-based subsidiaries of Japanese MNCs
３．学会等名 AIB-UKI Conference 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Heejin KIM, Hiroshi Itagaki
２．発表標題 A right language for differentiated missions : Language choice of Asia-based subsidiaries of Japanese MNCs
３．学会等名 AIB Annual Conference 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Heejin KIM, Hiroshi Itagaki
２．発表標題 Language as Coordinating Mechanism　: How strategic diversity affect language selection in overseas subsidiaries?
３．学会等名 EAMSA Annual Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 HEEJIN KIM
２．発表標題 JMNCs speak English? : Functional language choice of JMNCs
３．学会等名 多国籍企業学会　東部5月定例会
４．発表年 2018年

１．発表者名 HEEJIN KIM and HIROSHI ITAGAKI
２．発表標題 JMNCs speak Japanese?: Functional language choice of JMNCs
３．学会等名 12th GEM&L International Conference on Management & Language（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 金熙珍、板垣博
２．発表標題 海外子会社の言語選択と知識移転：アジアにおける日本企業の言語選択
３．学会等名 国際ビジネス学会　全国大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Heejin KIM, Hiroshi Itagaki
２．発表標題 Functional language of Japanese MNCs: A predetermined construct or a product of deliberate selection?
３．学会等名 GEM&L 2018 Conference（国際学会）
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

2022年度発刊予定の国際経営教科書に、「日本企業の海外子会社における言語選択」という章が出版される予定である。

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	板垣　博 (Itagaki Hiroshi) (20125884)	武蔵大学・公私立大学の部局等・研究員 (32677)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			